



緑中学校

所在地：金沢市みどり2丁目3番地

電話：076-240-2151 F A X：076-240-2152

HPアドレス：<http://www.kanazawa-city.ed.jp/midori-j/>

校長名：竹森 孝二

学年	1年	2年	3年	特別支援学級	合計
生徒数	177	150	172	6	505
学級数	5	4	5	2	16

	校長	教頭	教諭等					養護	事務	校務	他	合計
			1年	2年	3年	特学	他					
職員数	1	1	8	7	9	2	2	1	2	1	4	38

1 平成22年度学力向上の取組内容の検証

(1) 国語科

新出漢字を繰り返し練習させ、文法を丁寧に教えるなど、言語事項の習得に努めた。その結果、初読の文章に対する抵抗がやわらぎ、優れた文章表現を生徒自身が使えるようになった。

(2) 社会科

具体的・多様な資料を見て、意見を述べたり、記述したりする授業を意図的に試みた。歴史分野の人物や業績についての知識の定着が課題であり、授業のはじめに小テストなどで繰り返し学習を行った。

(3) 数学科

授業では学び直しの機会を多く設ける工夫をした。また、授業だけではなく、副教材や演習プリントの活用を通して、基礎基本の確実な習得に努めているが、まだ課題を残している。

(4) 理科

基礎基本の確実な習得を目指し、理科学語の記憶や基本的な計算練習を授業に取り入れ、小単元テストを実施し定着を図った。一定の成果は出ているが、家庭学習が不十分な生徒に於いては、課題が残る現状である。

(5) 英語科

基礎基本の確実な習得を目指して、常日頃から音読、動詞の確認と練習、ペアでの発表活動を継続的に取り入れてきた。ドリルやプリントを使って基本文法事項の反復練習や予習ノートの活用を家庭学習に積極的に取り入れ、一定の成果を得ることができた。

2 学力等の現状分析

(1) 国語科

言語事項に関しては、ある程度の効果が見られたが、主語と述語の関係の理解、自分の考えを記述する設問、文章の要約については、課題が残る。また、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことが苦手である。

(2) 社会科

時差の計算を含めて、地球上の緯度や経度の理解が不十分である。大陸・海洋名、都道府県庁所在地名などの基本的知識は定着しつつある。また、複数の資料から読み取ったことを関連付けて表現することができるようになった。しかし、歴史的事実について日本と関係のある国々のつながりが不十分である。

(3) 数学科

図形分野に関しては、ある程度理解できているが、全般的に学力の定着が不十分な傾向が見られる。特に、分数計算や関数関係をとらえる力、説明が必要な問題に対して苦手意識がある。

(4) 理科

基礎的な事項の理解は見られるが、結果を予想して実験装置を組み立てたり、考察する力は不足している。また、密度や湿度などの計算する力も不足している。文章記述、論述問題に無回答が多いなど表現力にも課題がある。

(5) 英語科

短い文の聞き取りや、ポイントとなる語を正しく聞き分ける力は概ね良好であり、教科書の音読、簡単な文の構成力も付いている。しかし、不定詞・動名詞など文法の理解度が低く、複雑な文の組み立てや正確な英文を構成するような応用力に欠ける。

3 学力向上の取組

(1) 全体的な取組

- ①学習につまづきのある生徒に対して、業後学習や繰り返し指導を重点的に行う。
- ②授業の導入時に、既習学習の小テストなどを実施し学習内容の定着を図る。
- ③小单元ごとに意図的に宿題（課題）を与え、家庭学習の定着を図っていく。また、单元テストを計画的に実施する。
- ④小中一貫教育を推進し、教師の授業力向上を目指す。

(2) 教科別の取組

ア 国語科

毎時間、漢字小テスト等を実施し、言語事項の定着を目指す。また、名文を視写することや、原稿用紙の正しい使い方を身につけさせるなど、書くことに関しての様々なパターンの練習を定期的に行う。何をどのように書けばよいのかを自分で考えられない生徒には、解答例を丁寧に示す。また、表現の視写を通して、表現の幅を広げさせる。

イ 社会科

授業の始めに小テストや繰り返し学習などを行い、基礎的な知識を身につけるさせる。ワークシートを使って、文章で説明させたり、考えさせたりする問題や、複数の資料からの読み取りを行う活動を今後も取り入れる。

ウ 数学科

習熟度別少人数授業を活かし、個に応じたきめ細かな指導を引き続いて行っていく。また、計算や小問に慣れるためのプリントやドリルでの学習を行い、基礎学力アップを目指す。さらに、チャレンジクラスにおいては、発展問題を多く提示し、活用力をつけるようにしていく。

エ 理科

基礎力の定着を図るために、授業では既習内容をできるだけ多く織り交ぜながら既習内容の復習に努める。また、小单元テストを実施し定着を図る。また、実験レポートなどで文章を書く機会を多く設定し、科学的な表現力の向上を図る。家庭学習の必要性を生徒に意識させる。

オ 英語科

引き続き基礎を固める活動に焦点をおく。基礎に関しては家庭学習にドリルプリントを課し、毎時、集約点検を行う。英文の構成力向上を図るために、グループ学習による学び合いの場を設定し、教科書を利用して日本文から英文を作る活動を行う。